

令和3年度 金沢市廃棄物総合対策審議会 会議録

■日 時 令和4年3月7日（月） 10:00～11:30

■場 所 金沢市役所第二本庁舎 2202 会議室

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

事務局

本日は大変お忙しい中お集まりいただき、御礼申し上げます。

定刻となったので、ただ今から令和3年度金沢市廃棄物総合対策審議会を開催する。

なお、本日の終了時刻は概ね午前11時30分を予定している。

また資料については、ペーパーレスのため電子化しているので、タブレットの画面を見ていただきたい。

それでは開催にあたり、吉田環境局長からご挨拶を申し上げます。

環境局長

本日は、ご多忙のところお集まりいただき、厚く御礼申し上げます。

また、委員の皆様には、日頃から、本市の環境行政、廃棄物行政に格別のご理解、ご協力、ご指導を賜り心から感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスについては、今年に入ってから、オミクロン株の出現により、現在、大規模な拡がりを見せており、感染者数も高止まり傾向が続いているところである。また、まん延防止等重点措置については、本日から2回目の延長期間に入り、まだまだ先行きの見通しが立たない状況となっている。

本市においては現在、3回目のワクチン接種券を順次送付し、早期の接種を呼びかけているとともに、5歳から11歳の小児接種についても、先週、接種券を一斉送付するなど、感染症対策に万全を期している。

県内で新型コロナウイルスの感染が発生されてから、丸2年が経過しているところだが、今後も引き続き、私たち一人一人が基本的な予防対策を講じるとともに、穏やかな生活様式の実践など柔軟な対応が求められているところである。

さて、全世界共通の課題である地球温暖化対策をはじめ、近年ますます高い関心を集めている海洋プラスチック問題や、また、将来の世代に、豊かな地球環境を引き継ぐうえで欠かせない、食品を取り巻く資源の効率的な利用など、我々を取り巻く様々な環境課題への対応は日ごとにその重要度を増している。

その中で、今年の4月に施行される新たな法律「プラスチック資源循環促

進法」では、国がプラスチック製品を資源として循環させることを目標に掲げ、自治体にも努力義務としてプラスチック製品の分別収集などの対応が求められているところである。

本日はそうした、プラスチック製品の分別収集に関する本市の対応方針についてご説明させていただくとともに、昨年2月に策定した、「食品ロス削減推進計画」に基づく、今年度の具体的な取り組み状況についてご報告をさせていただきます。

限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のないご意見・ご助言を賜るようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひしたい。

事務局

最初に、昨年4月1日に皆様に委員を委嘱して初めての委員会となるので、本日お集まりの皆様をご紹介します。

- ・各委員の紹介
- ・欠席委員の報告

本日の出席者は、委員総数14名のうち8名であり、「金沢市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する規則」第3条第2項に定める定足数である過半数を超えているので、本会議が成立していることを報告する。

議事に入る前に、新たに会長を選任する必要がある。

「金沢市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例」第9条第4項で、「会長は委員の互選により選任する」こととなっている。

どなたかご推薦される方はいらっしゃるか。

委員

引き続き、池本委員にお願いしたらいかがか。

事務局

ただいま、委員から池本委員の推薦があったかどうか。

全員

異議なし。

事務局

全員一致ということで、池本委員に会長をお願いしたい。

「金沢市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する規則」第3条第1項では、「会長が議長となる」と定められているので、これからの進行を池本会長にお願いする。

会長

ただいま、会長の職を仰せつかった。滞りなく進行していきたいと思っているのでご協力をお願いしたい。

プラスチック廃棄物について、新しい法律ができ、容器包装だけでなく、製品プラスチックもリサイクルをしていくということで本日は議題にあが

るようである。

私は、今年定年を迎えるので、部屋の片付けをしているところだが、ほとんどがプラスチック廃棄物である。紙は分別して古紙として出しているのだが、プラスチックを燃やすのはもったいないと思いながら、片づけを行っている。

このプラスチックがリサイクルに回ることになれば、海洋プラスチックの削減だけでなく、カーボンニュートラルにも繋がっていくことなので、金沢市で、このプラスチックリサイクルが実現することを願っている。

それでは議題を進めていきたいと思うのでよろしく願います。

本日の議題は2件であるが、これらを公開で進めていきたいと思うが、よろしいか。

全員

異議なし。

会長

それではまず、議題1「プラスチック資源分別収集の対応方針について」事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料1説明)

会長

ただいまの事務局からの説明について意見、質問はないか。

委員

容器包装だけでなく製品プラスチックも金沢市として資源化に着手、本格的にされるということで、一市民として心強く思っているところである。

解決すべき課題としていくつか説明があったが、あとは費用負担がどうなるのかという点も気になっているところである。私自身は環境経営についても関心が高いので、必要な部分の相応の負担は市民としてしかるべきだと思っているし、プラスチック製品を造っているメーカーや企業の方にも排出するうえでの責任があり、応分の負担が必要ではないかと考えており、一つの自治体で抱えられる部分には、正直限界があると思っている。

先般、プラスチックフリーのドキュメンタリーの映画を見たが、ニューヨークの小学生が自分たちの生活にどれだけプラスチックが含まれているかを学び、ランチの時間にたくさんのプラスチックが使われていることに気づいて、これはいけないということで、市議会にも話を持っていき、結局、ランチに使われているトレイを生分解性のものに代えていくことを行った。また、そのことをニューヨークだけでなく、広域の自治体と連携し、生分解性のトレイをたくさん発注して、総コストを下げるという広域での取り組みを行っていたので、すごく素晴らしい映画だと思って見ていた。

税金の負担だったり、今後の展開を考えていくうえでの広域での取り組みであったり、そうした選択肢も含めてご検討をされているようなら参考まで

にお伺いしたい。

ごみ減量推進課長 市民の負担という点に関してだが、現在、燃やすごみと燃やさないごみについては、市の指定ごみ袋を買って出していただいているので、ごみ量に応じた負担を求めているが、資源については、半透明ごみ袋で出していただくなど、直接負担していただいていることはなく、今後も、資源として出すプラスチックについて、新たな負担を求めることは考えていない。

プラスチックをつくる事業者や使う事業者の責任についてだが、拡大生産者責任という考え方は国も持っており、特定のプラスチック商品を販売する、あるいは無償で消費者に提供する事業者は、フォークやスプーンなどプラスチック製品を、生分解性のものにするとか、消費者の意思を確認して渡すとか、そうしたことが求められており、今後、取り組みが進んでいくことでプラスチック自体が減ってくるものと考えている。

広域での処理という点についてだが、金沢市だけでなく周辺自治体がどのようにプラスチック資源に対応し処理していくのか、その動向を確認していきたい。ただ、自治体によって、ごみの排出区分や収集方法が違うので、そうしたところも考慮し、しっかりと検討していきたいと考えている。

会長 プラスチックフリーの取り組みについてはどのように考えているのか。

ごみ減量推進課長 プラスチック自体の削減ということについては、環境局全体で、いろいろな取り組みを試みながら進めていきたいと考えている。

会長 確かにリサイクルありきではなく、まずは削減することが重要な課題であるので、金沢市としても、使い捨てプラスチックからの転換や使い捨てをしない行動に変えていくことを呼びかけていただきたいと思うし、また、公共施設で率先して取り組むなどぜひ進めていただきたい。

委員 私も会長がまとめてくださったように、リサイクルありきは良くない思っていて、とにかく消費の量を減らすことで廃棄の量が減っていくので、民側の責任というところもあるが、我々消費者の側にも責任があるわけで、両方で取り組んでいかないと、本当に厳しい状況である。

2050年に海洋プラスチックの量が魚の量を上回るというデータがあることは有名だが、真剣に取り組んでいかないと、金沢市など中核市レベルは、かなりの人口で消費量も多いので、金沢市で取り組んでいくことが良いモデルケースになっていくと思っている。

委員 今まで、容器包装プラスチックで汚れたものは中身を綺麗に洗ってリサイクルに回していたが、例えば、マヨネーズやチューブなど中に残ってしまうものなどは、綺麗に洗うことなく燃やすごみに出すようになって何年か経っ

た。

今後、新たにプラスチックごみを出す際も、中身を綺麗にしないとプラスチック資源として出せないと思っており、綺麗なものと汚れているものをいっしょに出すことに抵抗がある。

これまでのように、周りの人に中身を綺麗に洗って出すように言わなくてはいけないと思っているが、どの程度汚れたプラスチックを出すことができるのか。なかなか難しい問題だと思ってお聞きしていた。

ごみ減量推進課長

国が今年の1月に公表した「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集の手引き」によると、食品残渣、生ごみ、土砂等が付着することにより汚れたものは対象外とされており、そのほかにも、マーカーなどのペンなどは、インクを使い切るか芯を抜くことなどを要件としている。

ただ、この手引きは、先ほど解決すべき課題の③で再商品化事業者を引き渡す方法が二つあると説明したうちの、容器包装リサイクル法の指定法人に委託する場合に必ず守らなければならない基準である。もう一つの方法である国の計画認定を受けて再商品化事業者を引き渡す場合は、最終的に再商品化される時点で、品質が保持されれば、要件が緩和された形で排出することができ、例えば、汚れて出されたものでも、再商品化事業者の処理工程で綺麗に洗われていれば対象に含めることができる。

ただ、国の計画認定を受けるにも様々なハードルがあり、現段階でどちらが良いと判断できるものではなく、課題3にあげたとおり、これから検討していかなければならない事項である。

現時点では、1月に国が公表した分別収集の手引きを踏まえた基準に近いものにしなければならないと考えているが、いずれの場合も、プラスチックの資源化を推進するためには、排出時にある程度の分別をお願いしなければならないことは間違いなく、分別の取り扱いが決まれば、市民の皆様にごだけわかりやすく、しっかりと説明していく予定である。

会長

容器包装プラスチックの扱いについては、今までどおりと思っております。

ごみ減量推進課長

そのとおりである。

委員

プラスチック製品を資源化という流れは、そのとおりだと思っているが、焼却施設において、プラスチックを燃やしていたから生ごみも燃やせていたという部分があると思っている。これが資源化されて入らなくなると、カロリー不足になって、非常に燃やしにくくなるのではと心配している。

そこで、プラスチックのリサイクルを進めると同時に、生ごみを削減するということを統括的に、市民の皆さんにお知らせしていただきたいと思う。

会長や委員が言われるように、入口を閉めるところからトータルに考えて

いくとなると、3Rから5Rへという考え方に金沢市もシフトしていったほうがいいと思っている。リフューズといった一歩進んだ「買わない」、あるいはリペアをして「長く持たせる」という考え方をぜひ入れていただきたいと思う。

プラスチックには、メジャーカップとかCDとかいろいろあるが、おもちゃ、特に電動のおもちゃが多く、飲食店などでおまけとして電動のおもちゃが配られているのを度々見かける。

これが、プラスチックとしては資源化できないとなると、基本的には電池を抜いて、小型家電に出すことになると思うので、そうした現状もきちんとお伝えすることが大切である。今の、「家庭ごみの分け方・出し方」パンフレットでは、あまり説明できていないような印象があるので、ぜひ、おもちゃの資源化について、ルールをきちんとお知らせいただければありがたいと思っている。

そのほか、プラスチック製品で大型のもの、例えばお子様のすべり台のようなものとか、プラスチック製のケースとかあるが、大型のもので半透明袋に入らないものの扱いも課題だと思っている。

ごみ減量推進課長

まず、焼却施設への影響についてだが、プラスチックの焼却量が減ることによってカロリーは減少するが、焼却自体に影響が出ることがないことを確認している。

委員仰せのとおり、生ごみを減らしていくことは非常に重要なことであり、今後しっかりと市民の皆様にも、プラスチックの資源化と併せて、生ごみの減量化や古紙の資源化についてもしっかりと周知啓発に努めていきたいと考えている。

そうした中で、3Rから5Rへというご意見をいただいたが、現在、様々な機会をとらえて環境教育を行っており、今後も、小さなお子さまを含め市民の皆様にも、実践をとおして伝えていきたいと考えている。

プラスチックの中におもちゃがたくさんあり、電池で動くおもちゃについては、小型家電ということで燃やさないごみの日に、金属と一緒に出しているところだが、電池が入っていると火災の原因になることもあるので、そうしたことを、今ちょうど市民の皆様にお配りしている「家庭ごみの出し方・分け方」パンフレットに記載したり、ホームページでお知らせしたりしながら、そうしたことも広く周知できるよう努めていきたい。

最後に、大型プラスチックのごみステーションへの排出についてだが、現在、容器包装プラスチックの中でもトロ箱など大きいものは、風などで飛ばされないようにしていただければ、袋に入れず直接ごみステーションに出しても良いことをお伝えしているので、今後のプラスチック資源についても、基本的には半透明袋に入るものは出していただきたいが、大きなものは、ごみステーションで飛散しないよう、例えば、缶やペットボトルを入れるカンメイトを利用するなど工夫して出していただく方法もあるので、今後、こう

した課題も検討していく。

委員

私、金沢市民になったのが2021年からであり、直前まで住んでいた札幌市とは当然ごみの分け方も違い戸惑いがあったが、以前、「もったいないじい〜典」という冊子を見せていただき、その冊子には、ごみ処理のメカニズムなどが詳しく書いてあって、その知識に基づけば、市民としてどのように分けて出せば良いかや、汚れたものが良くないこと、また、先ほど委員が言われていたプラスチックごみが燃やすごみにある程度混ぜられているから水分を含んだ生ごみの燃焼の助けにもなっていることなどが分かり、金沢市民に半強制的に送られてくることがあれば良いと感じた。

普段配られているパンフレットは、ごみの分け方や出し方は分かりやすいが、なぜそうなのかという情報があると、もっと分かりやすくなると思っている。「もったいないじい〜典」は市民に配られているのかもしれないが、私のように、市外から金沢市に転入してきたときにはもらえなかったもので、そういったものが配られると良いと思った。

環境教育については必要なことだが、環境教育となると学校というステータジで行うか、社会にその都度働きかけるかということになるが、そうになると、学校の生徒さんは聞く機会があるが、社会に一度出してしまうと、よっぽど関心を持っていないとキャッチする機会がないと思うので、市として全体のシステムをつくっていただくことが重要であり、そうした機能が働くと思うので、「もったいないじい〜典」をぜひ半強制的に配っていただき、もっと金沢市民をつついていただければと思う。

ごみ減量推進課長

毎年市民の皆様にお配りしているのは、ごみの出し方・分け方に関するパンフレットであり、「もったいないじい〜典」については配布していない。

ただ、ホームページでごみの出し方や処理の仕方などを見ることができたり、スマートフォンなどで、5374（ごみなし）アプリを登録して検索することができたりする。また、昨年6月から、スマートフォンのLINEアプリを用いて、ごみの分別の問い合わせに24時間対応できるよう新たなサービスを開始したところである。

配付された紙やパンフレットを見ていただくのが、各世帯、各市民にとって一番目につく方法かもしれないが、市役所全体がペーパーレス化を進めており、本日の会議も紙資料を配布することなくタブレット方式で行わせていただいている。

今後も、配布以外にどういった方法で市民の皆様にお知らせするのが効果的かを考え、情報提供について充実させていく。

委員

ペーパーレスに関しては私も大賛成だが、必ず知って欲しいことは、紙で配らないと伝わらないと思っている。

私たち市民が参加しやすいのが、ごみに対する意識を持つところからだ

思っているので、そこからスタートして自分の消費生活を見直し、買うということや、先ほど委員が言われていた5R、リフューズとカリペアということが、自分たちの行動変容に繋がっていくところだと思う。

私自身、ホームページにあることを知らず、実際見に行っていないので、そうしたものもあるということを含めて伝えるようにしていただきたいと思う。

会長

私も分別した後どうなるかということは非常に大切だと思っているので、市の方が講師として金沢大学の学生に説明に来られた時は、そうしたことを説明していただくよう無理なお願いをしている。ただ、それを大勢の皆さんにお知らせすることは非常に難しいことだと思っており、紙を配って見る人も全員ではないかもしれない。

今回、分別ルールを変えるということで、何らかの説明会等を開催されると思うので、そうしたときがチャンスであり、説明会に集まる人は関心のある人ばかりかもしれないが、何のために分けなければならないのかということも上手に周知していただきたいと思っている。

委員

先ほど話のあった5374アプリを使っているが、非常に検索がしやすく、便利だと感じている。

これまでの議論の中でも、わかりやすくという意見が出ているところであるが、今回のプラスチック資源の導入にあたっては、先ほどからお話しされているように、どういうものまでが出せるのか、どういったものが出せないのか、あるいは同じプラスチックに見えても出せるものと出せないものの違いは何か、迷うことが非常に多いと思う。

ぜひ導入前には、ごみステーションの前に「いつから開始されるので詳細については各世帯に配布されるチラシを見てください」とか、アプリの二次元コードが貼り付けてあって「ここから読み込んでいただくと分かりやすく説明してあります」というふうに事前の周知を丁寧にしていただきたいと思っている。さらに、分別の必要性などを検索してたどり着くよう誘導できるシステムになっていけば良い。

収集日に関しては、市民の戸惑いがないよう今の資源回収日に出していただくことを検討しているということで心配はしていないが、出す日も含め、出すことのできる品目についても事前にわかりやすく、周知していただければと思っている。

ごみ減量推進課長

委員仰せのとおり、事前の説明はしっかりと実施していく必要があると思っている。同じプラスチックであっても先ほどからご意見をいただいている汚れたものや大きさ、対象となる品目も含めていろいろ検討し、決まった段階で市民の皆様にとしっかりと周知をしていく。

その周知の仕方は、これまでもいろいろな制度の変更を実施するに当たっ

ては約1年かけて各町会や校下などに説明会を開催してきたように、同様に十分に時間をかけ、説明会の場では、資料を作成しお配りして説明したいと思っており、その中で、なぜ必要なのか、処理したものがどうなるのかなども含め、市民の皆様にご理解いただけるよう説明していきたいと考えている。

委員

三点お聞きしたいことがある。

まず一つ目は、この法律における事業系ごみの取り扱いの問題を教えてください。

二つ目についてだが、この法律では努力義務ということで、いくつかの課題があり開始時期は未定という説明があった。三つの課題の中でも②の中間処理施設等の受け入れ体制の検討がとても難しそうな問題だと感じたし、設備投資も場合によってはどれだけかかるのだろうかと思うところである。世の中が今、環境問題に非常に関心を持って、国民みんなで対応していこうということだと思うし、企業としても、環境にやさしい企業であるべきということで、環境問題への対応が、それぞれの企業の業績にも影響する時代であると思っている。そうした中、この課題②は大きな問題であり、現時点でお答えするのは難しいかもそれないが、目標を掲げることも必要だと思っている。

三つ目は、皆さんが言われているとおり、出し方についての物差しみたいなものが必要だと思う。私も、今ほど委員がおっしゃったようにアプリも使っているし、パンフレットも見てごみを分けている。台所仕事をしていると小袋に入ったものなどが出てきてどうすれば良いのか参考にしているところである。

金沢市民は本当に真面目であり、市の言われたとおりこのバイブルにのっとって処理されているので、「ごみの出し方がこのように変わりますよ」と説明されればそのとおりにやると思うので、その時の物差しの示し方が大切であると思う。それが決まれば、きっと今までどおり、きちんと励行されると思うので、皆さんおっしゃるように、それをわかりやすく、イラストのほか写真など具体的に示していただくと、市民の皆さんは理解してしっかりと出していただけるのではないかと考えている。

ごみ減量推進課長

まず、事業者の方の法に基づく責任についてだが、プラスチック使用製品を製造する事業者にあつては、プラスチック代替製品を使ったり素材を工夫したりするなど製造段階で減量化に努めることや、廃棄物を出す事業者にとっては、排出抑制と再資源化に取り組まなければならない。

そうした中で、排出事業者にあつては、年間250トン以上排出する多量排出事業者は排出抑制や再資源化などの目標を定めて計画的に取り組まなければならないこととなっている。

商品の販売や役務の提供に付随して消費者に無償で提供される特定のプ

プラスチックを取扱う事業者のうち、年間5トン以上提供する事業者に対しては、国が直接指導したり勧告・公表したりすることができることとされており、そうした事業者は、提供するプラスチック類を減らすための努力をしなければならない。

事業者にとっては、作る段階から最終的に廃棄する段階までの間、それぞれの事業者が取り組むべきことが決められており、国はそうした方針を打ち出している。

次に、今後いつから実施するかという目標等についてだが、現時点で、中間処理をどのように整備するのか、どれだけ排出されるのかなどを検討し、また、現在、容器包装プラスチックの処理ラインを稼働しながら改修工事を行うのか、あるいは新たな場所に施設を造らなければならないのか、さらには、民間で廃プラの中間処理を行っている事業者が、一般廃棄物も取り扱っていく意向があるのか、能力は十分かなどを総合的に検討しなければならないことを考えると、いつ頃から実施するという目標を立てるのは難しいと考えている。

最後に出し方の物差しという点についてだが、今後、いろいろなことを検討したうえで、市の分別基準を策定し、市民の皆様にはわかりやすいように提示しなければならないが、説明する際に、写真やイメージ図など具体的な例を出しながら、しっかりと説明していきたいと考えている。

会長

事業系のプラスチックについては事務用品などいろいろあると思うが、排出される事業者への指導はどうするのか。

ごみ減量推進課長

まず、プラスチックの区分についてだが、家庭から出されるものは一般廃棄物であり、事業系のプラスチックは産業廃棄物となり広域で処理されている。

プラスチックを含め事業系ごみの処理は、その事業者の責任において適正処理を図ることや再資源化に努めることが法律で定められている。これまでどおり、適正処理指導を行っていくことになるが、新たな法律の施行を機に、排出事業者や処理業者に対し、これまで以上に、減量化や資源化に努めるよう、また適正に処理するよう啓発していきたいと考えている。

委員

先ほど委員から話のあった「もったいないじい〜典」について紹介する。

11年前、市民協働推進課の事業に応募して初版を作ったもので、市と共同制作したものである。これまで一度改訂しているが、このほど全面改定を行っている最中であり、今回はホームページに載せる予定である。

前回の改訂時には印刷し、小学4年生がごみ処理施設の見学に来た際などに先生にお渡し、活用していたというふうに聞いている。

印刷用として作成する場合とホームページに載せる場合では、全然ボリュームの作りから違うので、今回は、できるだけ軽くしてホームページに載せ

ることを考えている。また、先ほどお話しした3Rの先までというところにか
なりのページを割いて再編集している。

今回作成したものは、皆さんにも簡単に見ていただけるものになってい
ると思うので、うまく活用していただければありがたいと思っている。

会長

皆さんもぜひ、活用していただければと思う。

それでは、まだ決まっていないところが多いが、本日、各委員から出たい
ろいろな意見を十分に踏まえて、どのようにリサイクルしていくかを十分に
検討され、適正な分別ができるようよろしく願います。

次は、議題2「金沢市食品ロス削減推進計画の実績報告について」事務局
から説明をお願いします。

事務局

(資料2説明)

会長

ただいまの事務局からの説明について意見、質問はないか。

委員

二点事実関係を確認したい。

今年度の食品ロスはどのぐらい出ているのか。また、いいね食べきり推進
店の情報を無料情報誌に掲載されたということだが、差し支えなければ、ど
の情報誌か教えていただきたい。

事務局

食品ロスの実績は、お配りした「食品ロス削減計画概要版」の最後のペー
ジを見ていただきたいのだが、平成30年度にごみの組成調査を実施してお
り、実際に出された燃やすごみの袋を開けて、その中に食品ロスの割合がど
れだけあるかを調べたものである。この調査は5年に一度実施しているもの
で、今年度は調査をしていないので実績を把握していない。

無料情報誌についてだが、カラフルカンパニーさんが金沢市内で無料配布
している「金沢情報」という情報誌があり、10月と12月に記事を書かせてい
ただいた。10月は、食品ロス削減推進月間でありそれに関する記事を、また、
12月は、宴会は少なくなったものの食事をする機会が増える時期なので、「い
いね食べきり推進店を活用しましょう」ということや、「食品ロス・食べ残
しをなくしましょう」ということの記事を書かせたものである。

委員

家庭用生ごみの処理に関してだが、こうした問題に関心がありながら、家
でコンポストをすることは、私的には若干ハードルが高いと感じている。そ
こで、もし可能であれば、例えば、地域でコンポストを置くことができない
かと思っており、個人でするより、力を合わせて複数の方が参加できるの
ではないかと思う。

そういう取り組みがあれば紹介していただきたいし、何かアドバイスがあ

ればお伺いしたい。

委員

東京都内で、アパート・マンションが共同で、常時電気でかき混ぜるタイプのコンポストを設置した事例を紹介する。

資源ごみなどを出すような場所に設置し、生ごみが入れられたら、定期的にかき混ぜ、処理をするというもので、区が補助を出していると聞いたことがある。これは、面白い事例だと感じており、調べていただければと思う。

コンポストは、放置しておくことはできず定期的にかき混ぜなくてはいけないものであり、ダンボールコンポストの場合、自分の手でそれをやらなければならないが、これが自動的に回転したり空気を送ったりすることができるような大型のものもある。

例えば、東原の「かし」というレストランの裏だったと思うが、地域の皆様がそこに持ってきて利用する取り組みがあるので、そうした地域に導入されているところやその地域と連携協定を結ぶとか、そういった工夫も考えられると思う。

委員

新しいごみを入れたら、その都度かき混ぜなければならないのか。

委員

今の事例は、常に一定間隔でかき混ぜる電動式のものであり、生ごみを入れる人は、ふたの開け閉めだけとなる。

ごみ減量推進課長

地域でという話があったが、現在金沢市では、電気式生ごみ処理機の貸し出し制度を実施しており、個人で借りられる方がほとんどだが、中には団体として、数台まとめて借りられることがある。一つの大きな機械で処理するものではないが、数台の生ごみ処理機を一度に借りることができるので、地域でそうした取り組みを行う場合があれば市に連絡していただきたい。

委員

すごく良い事例だと思うので、取り組みされている方が嫌でなければ、フォーカスして特集記事として紹介したり、市として発信したりしていただくことで、他にも波及するヒントになると思うのでご検討願いたい。

私もアパート暮らしなので、どこまで同じ住居の方が関心をお持ちかわからないが、考えてみたいと思った。

会長

これに関しては、行政として生ごみを分別してメタンガス化するという取り組みをされているところもあるし、バイオマスガス化すれば、その分エネルギー回収ができて、そのあとコンポストの取り組みにつなげるとか、そうした小さな規模から大きなところまで、いろいろな生ごみの有効利用の仕方があるので、今後、いろいろ検討していただければと思っている。

また、そうした団体などを行政がどのように支援するかということはこれからの課題だと思う。

委員

若者とかその子供への周知啓発についてだが、私はこの会議に参加させていただくようになってから、「ゼロカーボンシティかなざわ」のInstagramの投稿を見ており、クイズがあるので自分でも解いてみるが、分からないことが多い。何かそうしたものがいろいろな若者に広がってInstagramを見ていただければ良いと思うが、友人は歩いているときに見ることがなく、なかなかフォロワー数が増えていない。

私は、エコ意識を持っていて、家での食品ロスについて考えることがあり、例えば、バナナなどは腐りやすいので冷凍保存ができると思うが、その保存方法について、Instagramに投稿されていたら私は気になるし、一人暮らしの人も見ると思う。ネットで検索しても出てくるが、Instagramを使っている人が結構多いので、そういう投稿があっても面白いと思った。

親子食材レスキュークッキング教室の説明があつたが、私の母が、金沢市のLINEか何かでお知らせを見て、参加したそうだったが家に小学生がいなかったの、残念ながら参加できなかった。できれば、私ぐらいの世代やいろいろな世代が参加できるようになったら良いと思った。

環境政策課長

SNSの発信については昨年から少しずつ始めている。確かに若い人には、Instagramとか、ツイッターとかで発信することが非常に効果的だと思うので、どんな方法が良いかも含めて相談させていただきたいので協力をお願いします。

親子クッキング教室について、先ほどアプリで食品ロスの調査をしたことを報告したが、子育て世代の食品ロスが多いことが明らかになっており、その中でも、小学生や未就学の子がいる世帯の食品ロスが、大人のみ世帯に比べて2倍から3倍ほどの量が出ているので、まずはこの世代をターゲットに絞って啓発をしていくことを考えている。ただ、幅広い世代に対しても、いろいろな形で働きかけを行っていきたいと考えている。

委員

Instagramの話があつたが、私自身は得意ではないが、若い人たちはInstagramとかTikTokなどを使うことが多いのかなと感じている。

私は今、金沢市地球温暖化対策推進協議会の委員も務めており、そちらの会でもコメントさせていただいたことだが、Instagramなど比較的新しいツールの発信方法は、若い世代の皆さんの方がノウハウをお持ちなので、投稿の内容から含めて考えていただくことが良いと思っている。

もう卒業され難しいかもしれないが、この審議会の中でも若い世代である委員に教育していただくのも良いかもしれない。

多分、市の中でも比較的若手の方が投稿しているのだと思うが、あえて、市の職員ではなく、外部の方を巻き込んで発信すると、一般市民の方は面白

く見るのではないかという気がしている。例えば、インターンシップの学生の方が来られた時に、その学生さんが発信すれば、市として必要なことを発信しているというよりは、一般の市民の方をとおして伝えているので、いろいろな存在の方が発信しているという感じが出て、フォロワー数を増やす意味でも面白いと思った。

会長 ぜひ発信の仕方については、市の若い方々で検討していただき、若い人のアイデアが反映されるインスタグラムになると良いと思う。

委員 今回の資料は、調査の概要だけしか載ってないのでよく分からないが、先ほど市から説明があったように、世帯の構成人数や子育て世帯ということも見て、ターゲットを絞って周知していくということは良いことだと感じた。

ただ、現在、女性活躍の時代と言われ、特に北陸地域は女性の方の就業率が非常に高い地域であり、働きながら子育てをしているという現状がある。他方、地域コミュニティは昔と比べて疎遠になっていると感じており、日々の生活が忙しいことや、人口減少とか少子化とかそういうこともあって、そのような状況にあると思っている。

こうした背景があることを考えると、一つの方法でこの問題を解決することは難しいので、それぞれの場面に応じて、いろいろなところから、様々な情報を発信することが必要であると思った。

実際の調査を基に、子育て世代で食品ロスが多いからそこにターゲットを絞ることは大切だけれども、子育て世代の方はいろいろな問題を抱えており、そこだけが悪いということも言えないので、やはり全体で取り組む必要があると思う。消費者も事業者も、お子さんから指摘されると親もそうしようという気になると思うのでお子さんも、要は、みんなで取り組まなければいけないということである。なかなか難しいことだとは思いますが。

環境政策課長 食品ロスは、家庭向けの対策と事業者向けの対策があり、家庭向けの対策としては、まず買い物の段階からいらぬものを買わないとか、手前取りをするとか、そうしたところから啓発をしていくことが大切だと思っており、また、会食の時になるべく食べきるとか、そういうようなことも含めて、それぞれの場面での消費行動の変容を求めるような普及啓発や消費者教育が必要だと考えている。

事業所向けについては、製造であったり小売であったり、外食とかそれぞれの役割に応じた、いろいろな対策が必要だと思うので、こうしたことについては、新しく作った協議会の中で、それぞれの場面々々に応じて、どんな対策ができるのか、少しずつ検討していきたいと考えている。

委員 市民アンケートの中で、家庭で捨てられている食品と、外食時に食べきれなかった料理の持ち帰りについての調査がなされていたが、具体的に、どん

なときに、どんな対応をすれば、あるいはどんな考え方をすれば、食品ロスの削減が実行できるのかを知らせることが大切であると思った。

懇親会を含めていろいろな会合があり外食する機会があるが、終わってみると結構な量の料理が残っていて、これはどうなのだろうと思うことがよくある。こうした宴会時に、最初の何分間と終わりの何分間は着席して料理を食べましょうという取り組みがあったと思うが、どこが提唱されたのか。

委員 松本市が発祥である。

委員 金沢市としてはどこが発信しているのか。

事務局 環境局である。

委員 この取り組みをもう少し実現させるために、各種団体にお知らせすることも大事であり、特に、開始のあいさつなどセレモニー時には着席しているが、終わりの方に着席している習慣がそれほどないように感じるので、終わりの着席についてもいろいろな機会アピールして行ってほしいし、そういった具体的な取り組みの周知が必要だと思った。

会長 いいね食べきり推進店では実施していただいていると思うが、その取り組みが広がるようもう少しPRするということであった。

定刻に近づいているので、他にご意見がないようであればこれで終了とする。

食品ロス対策における今後の事業に関しても、本日のご意見を踏まえてぜひ取り組んでいただきたいと思います。

本日の議事は以上となるが、議事に関することやそれ以外のことでも構わないので何かご意見・ご質問等はあるか。

全員 (なし)

会長 ないようなので、本日の議事を終了させていただく。

議事の進行にご協力いただきお礼申し上げます。

それでは進行を事務局にお返しする。

事務局 本日は、委員の皆様には長時間にわたりご審議いただきお礼申し上げます。以上で、令和3年度金沢市廃棄物総合対策審議会を終了する。

(別 紙)

令和3年度環境審議会出席者（順不同、敬称略）

会長 池本 良子（金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授）
青海 万里子（公募委員）
中川 一成（金沢市町会連合会会長）
西田 哲次（金沢商工会議所常務理事）
能木場 由紀子（金沢市校下婦人会連絡協議会会長）
野吾 菜穂子（公募委員）
吉田 直子（金沢大学 AI ホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究センター助教）
吉原 沙紀（金沢のごみを考える学生連絡会）

※欠席者

奥井 めぐみ（金沢学院大学経済学部経済学科教授）
金岡 幸子（金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長）
藤村 一志（連合石川かなざわ地域協議会事務局長）
松川 治彦（石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事）
三国 千秋（北陸大学名誉教授）
吉田 孝之（金沢農業振興協議会会長）

(事務局出席者)

吉田 環境局長
永井 ごみ減量推進課長
山口 環境政策課長
山口 施設管理課長
田村 ごみ減量推進課家庭ごみ対策室長
宮村 ごみ減量推進課事業ごみ対策室長
山田 環境政策課ゼロカーボンシティ推進室長
宗藤 環境政策課課長補佐
村山 ごみ減量推進課係長
川端 環境政策課ゼロカーボン推進室主査